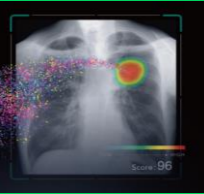


## レントゲン機器が新しくなりました

### AIによる診断支援

CXR-AID



レントゲン機器の入れ替えを行いました。従来と比べ画像が鮮明になり、画像処理時間も短縮されました。また、CXR-AID(胸部X線画像病変検出ソフトウェア)を導入し、AIによる診断支援が可能となりました。(FUJIFILMホームページより画像引用)

## 永年勤続 表彰

当法人は、永年勤続し地域医療・介護に貢献してきた職員を表彰する制度があります。2024年は勤続20年の職員が5名と、常勤医師となり10年・非常勤としての勤務を含めると40年以上になる蓮井医師の計6名が表彰されました。表彰状授与、記念品・花束の贈呈に続き、表彰された職員全員から挨拶がありました。これまでの数十年を振り返り、入職してからの思い出、尽力してきたこと、今後の抱負が熱く語られました。患者様や地域の方々から頂く感謝のお言葉や、支え合う仲間がいたからこそ続けることができたのだと思います。これからもよろしくお願いいたします。



### 新入職員の紹介

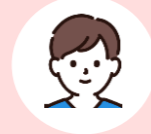
採用情報はホームページをご覧ください

- ①趣味やマイブーム
- ②入職して良かった、と思うエピソード
- ③外来患者さん、入院患者さん、地域の皆さんへメッセージ



1病棟看護  
元

- ①美味しいものを食べること・娘と遊ぶこと。
- ②周りの先輩方が優しいこと。いつも気にかけて声をかけてくださいます。
- ③一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。



施設係清掃  
東迫

- ①ダイヤモンドアートと釣りが好きです。
- ②患者さんや湯田内科病院で働いている色々な方々に「いつもきれいにしてくれてありがとう」と感謝をされたことです。
- ③皆さんに気持ちよく利用してもらえるように丁寧な清掃を頑張ります。

### 編集後記

長い残暑が続きましたが、新年となり本格的な寒さが到来いたしました。2025年はマイナ運転免許証の運用開始や55年ぶりの万博が予定されています。寒暖差に気を付けてお過ごしください。  
★ホームページをリニューアルいたしました。面会制限のお願いも掲載していますのでご確認ください。

スマホでQRコードを読み取り  
ホームページにアクセスできます



URL <http://kenseikai.biz>

湯田内科病院 広報・環境委員会

# 和・輪・話

285号



2025年冬(1月)湯田内科病院広報誌

## 新年のご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。今年も元旦から良い天気恵まれ、綺麗な初日の出を拝む事が出来ました。ここ数年は穏やかな天気で元旦を迎える事が出来て、健やかな気持ちで新年の決意を新たにしております。

ただ昨年12月からインフルエンザが全国で猛威を振るっています。1月1日は当院が日置市の当番医でしたが、90名近い発熱外来の患者さんが来院、その内50名以上がインフルエンザの診断でありました。これからは当面は厳重な感染対策が必要と再度認識した次第です。

昨年は元旦に石川県能登半島を中心に大きな地震が起こり、その後9月に同じ地域で豪雨災害が発生、現在でも多くの住民の方が仮設住宅で暮らしております。地震から1年が経過してもまだ復旧の目処が立たない状況で、人口流出の問題も重なり、地方での生活、経済産業の脆弱性を感じております。

鹿児島でも8月の台風10号により各地域で長時間の停電を余儀なくされました。病院や関連施設も例外ではなく多くの患者さんや利用者の皆さんにご迷惑をおかけしました。我々の地域もいつ能登半島と同じ事が起こってもおかしくありません。令和の時代は自然災害とも共存しないといけない時代になったのかもかもしれません。

感染対策についてですが、法人としては今のところ入院患者さんや入居者の方たちへの面会、外出等も制限しており、現在は前述したようにインフルエンザウイルスの流行もあり、今後ご家族の皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ありません。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

地域の皆さんに安心できる医療、介護を提供することが、我々健誠会の使命です。皆さん、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

医療法人健誠会 理事長 齊藤 稔

# 通所リハビリテーションwinter

11月



今季はチューリップの球根に加え、新たにパンジー・ラナンキュラスの苗を植えました。春の開花が楽しみです。

12月



利用者の皆さんと久しぶりにホットプレートを囲み、パンケーキを作りました。ご自分で焼いて思い思いのトッピングを楽しまれ、大盛り上がりとなりました。



毎年恒例の干支壁画を製作しました。

# 車椅子再発見プロジェクト講演会

車椅子エバンジェリストの宇佐見様、中村様をお迎えし、「車椅子再発見プロジェクト」をテーマにご講演いただきました。エバンジェリストとは『分かりやすく伝えていく人』という意味を持ちます。知っているようで知らない車椅子の情報を広げるため、日本各地で活動をされています。講演では車椅子の基本知識を始め、車椅子ユーザーの想いを映像と共に伝えてくださいました。「車椅子は私を自由にしてくれるツール」だと笑顔で話す女性が印象的で、その方に合った車椅子へ調整すること、そしてそれが様々な意欲へと繋がることを再認識いたしました。また、不良姿勢がもたらす褥瘡・誤嚥・転倒の危険を予防し、自ら不調を訴えることが難しい方への気付きが必要だとお話がありました。

今回の講演では、パラリンピック選手の車椅子も手掛ける松永製作所様が最新型車椅子を寄贈くださいました。最新型車椅子に触れ、開発者側の想いも知ることができました。また、標準型(従来のスタンダードな)車椅子を各々の身体機能に合わせる調整法をレクチャーいただきました。講演後は早速各自で標準型車椅子の確認・調整を行い、参加できなかった職員へも伝達を行いました。

数十分座り、座り心地を体験・比較しました



多職種が研修に参加しました



良くない姿勢のまま物を拾うと転倒の危険が...

前輪を前向きにすることで転倒予防になります



座り方によって介助者の負担も軽減されます



最新型車椅子では後方ベルトを調整することで格段に腰が楽になりました

Risk4 介助者の身体負担



ありがとうございました！

- 研修で見つけた車椅子再発見Point
- 開発者・職人のこだわりを知り、**価値**を再発見
- 新しい知識や対処法を知り、**私たちができること**を再発見
- 自分に合った車椅子を使うと、**気持ちが前向きになること**を再発見